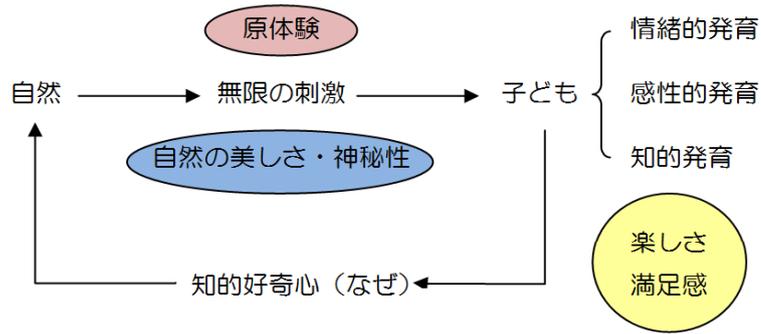


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	地域活性化／環境教育・エコツアー
手法名	子どもの発達に寄与する里山保育活動
主体	片山雅男(夙川学院短期大学教授)
背景(地域の課題)	<p>近年、里地里山環境を活用した教育・保育活動が盛んに行われるようになってきている。</p> <p>各地で地域特性を生かしたさまざまな取組があるが、里山環境の本来的機能や子どもの教育的要素とかい離れた一過性のイベント的なものも散見される。</p> <p>里山の本来持っている機能を理解し、その潜在能力を持続的に発揮させながら子どもたちの発達に効果的に寄与する知見や取組方法が求められている。</p>
手法／方策の詳細	<p>児童教育学分野における里山活動研究から、里山の保育活動利用について次のような有効性とそのための方法が考えられる</p> <p>1) 保育活動と里山特徴のマッチング</p> <p>① 子どもたちは遊びが生活圏の中心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育には自由な発想の場(心理的・時間的・空間的)が必要 ・子どもは自然との直接的経験を通して成長する <p>これらの点から、生き生きと意欲的に接することのできる自然として里山は魅力的。また、里山の資源の多くは繰り返し使えるものが多いため、子どもたちの試行錯誤を通じた遊びの素材を提供する場としても適している。</p> <p>② 里山の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々が生活していく上で必要な物を調達するための集落周辺の林 ・必要量を考慮した多種類の植物を管理 → 高い生物多様性の維持 ・小面積の土地を最大限活用 → 環境条件を活かした土地利用・生育地管理 ・生育適地 → パッチ状に多様な生態系が成立 <p>以上により、多様な生物の共存、種の多様性・遺伝的多様性の保証。こうした里山の多様な動植物の世界は子どもたちにとって多くの刺激をもたらし、教育・保育上の効果が高い環境となっている。</p> <p>2) 子どもの保育・遊びと里山活動の関連性</p> <p>里山の特性を維持・継承する新たな利用の展開として、保育活動は適しており、子どもの遊びの4要素(ロジェ・カイヨフ)とも次のような関連があると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争(図1): 昆虫、カエル、サワガニなど動物の捕獲とそのための仕掛けの作成、観察と飼育、植物の採集(木の実拾い)・水晶捕り 工作の材料採集(草木染、ツル細工) ・偶然(図2): 探検ごっこ・迷路 ・めまい(図3): 縄ばしご、ジャングルジム、ブランコ、ターザンごっこ、草すべり ・模倣(図4): 秘密基地・ツリーハウス・ままごとの材料採集 <p>3) 保育のための里山づくり</p> <p>保育活動を維持・継続できるような里山づくりのポイントとして次のような項目があげられる。</p> <p>① 里山保育のさまざまな活動を可能にする多様な生態系、生き物集団の創出</p> <p>多様な生物の生息環境を創出・整備することで、保育の活動のメニューを豊かにする。また自然との共生を意識した維持管理を行う。例えば、植物相・動物相調査を行って子どもたちが活用できるものを探し出したり、量的に必要なものについては増殖を図り生育地を管理したりするなど、効果的・継続的に利活用していくための工夫も大事だと考えられる。</p> <p>② 安全な里山保育の場</p> <p>安全に活動できるための維持管理。子どもが自由に活動できる場が保証される。</p> <p>③ 里山保育の場としての自然環境づくり</p> <p>子どもたちの自然の活動を想定した自然環境づくり。自然環境の保全を意識した里山保育のための環境の維持。</p> <p>④ いつでも自然の活動ができる場</p> <p>子どもたちが自由に楽しめる里山保育のメニューの提案。</p> <p>四季に対応した自然の活動ができる環境整備。</p> <p>いつでも自然遊びができる空間を確保。</p>

実行プロセス・運営体制のイメージ

子どもの発育と自然とのかかわりの循環



子どもにとって魅力ある里山の要素

- ① 親しみのある自然であり、感性・情緒を経験できる自然
- ② 季節感に恵まれており、四季の変化に富む
- ③ 五感の活用により感覚的な把握ができる
- ④ 繰り返し扱える素材を自由に選んで使える
- ⑤ 子どもの主体的な活動・発想・創意工夫が生れる
- ⑥ ひとつの事象を多面的・多様的に把握できる

図・写真資料



参考資料

平成25年度里なび研修会in長野県飯綱町パワーポイント資料「子どもの眼がきらめく里山づくり」(片山雅男)